

『能格性 ERGATIVITY』

〈目 次〉

序文
謝辞
略語リスト

1. 入門

- 1.1. S、AそしてO：普遍的な統語的・意味的基本要素
- 1.2 予備的实例
- 1.3 「能格」という用語の別の使い方

2. 統語法に基づいた標示と意味に基づいた標示

- 2.1 統語法に基づいた標示
 - 2.2 意味に基づいた標示
- 補遺：1つの言語における2種類の標示

3. 節内能格性あるいは形態的能格性

- 3.1 中心的な統語関係の標示タイプ
 - 3.1.1 格変化
 - 3.1.2 小辞と側置詞
 - 3.1.3 相互照応指示
 - 3.1.4 2つの相互照応指示メカニズム
- 3.2 節内（節内部の）成分順（「語順」）
- 3.3 意味的原理
- 3.4 有標性
 - 3.4.1 無標化された絶対格、有標化された能格
 - 3.4.2 無標化された主格、有標化された対格
 - 3.4.3 有標主格
 - 3.4.4 相互照応指示システムにおける有標化

4. 分裂組織のタイプ

- 4.1 動詞の意味的性質によって条件づけられる分裂
 - 4.1.1 分裂的S組織
 - 4.1.2 流動的S組織
- 4.2 名詞句の意味特徴によって条件づけられる分裂
 - 4.2.1 「拘束的」分裂対「自由」分裂
- 4.3 テンス／アスペクト／ムードによって条件づけられる分裂
- 4.4 「主節」対「従属節」の分裂
- 4.5 異なる種類の分裂の組み合わせ

4.6 要約

補遺：分裂タイプの目録

5. 「主語」のカテゴリ

- 5.1 「主語」の普遍的な定義
- 5.2 キーナンの「主語」の議論
- 5.3 「主語」に依存する普遍的な統語現象
 - 5.3.1 命令法
 - 5.3.2 ‘can’, ‘try’, ‘begin’, ‘want’ とその類似の動詞
 - 5.3.3 再帰における制御
 - 5.3.4 使役
 - 5.3.5 要約

6. 節際能格性あるいは統語的能格性

- 6.1 受動と逆受身
- 6.2 統語的ピヴオット
 - 6.2.1 ピヴオット研究のための基本的枠組み
 - 6.2.2 ジルバル語のS/Oピヴオット
 - 6.2.3 形態的能格性とS/Aピヴオットをもつ言語
 - 6.2.4 混合されたピヴオットをもつ言語
- 6.3 能格的な節際統語法をもつ言語

補遺：チャマラル語

7. 言語変化

- 7.1 対格型から能格型へ
- 7.2 能格型から対格型へ
- 7.3 全般的論評

8. 能格性の理論的根拠

- 8.1 談話的基礎
- 8.2 言語が能格であるとはどういう意味か
- 8.3 要約
- 8.4 後書き

補遺：理論モデルの注解

参考文献
著者の索引
言語と語族の索引
主題索引